

祈り合える喜び、一枚のハガキ



梅北美智子  
(鹿兒島教会)

「祈りのハガキ」について書いてほしいと言われ、15年前の春の朝のことを思い起こしています。

弟に任せきりだった母を引き取る力もなく、教会でもなんだか思いだけが空回り、仕事も定年まで5年を残して体調をこわし前年の秋に退職、ハローワークの職業訓練を受けても、55歳の病気持ちに仕事はなく、どうしていいかわからない日が続いていました。4月に入って間もないある朝、いつになく早く目が覚めました。引きずられるように机の前に座り、聖書日課を読んでいるうちに1枚

のハガキを思い出しました。それは、数年前、教会のボードに貼られていたM先生からの「祈りのハガキ」でした。役立たずの私にもこれならできるかもとほんやり思いました。ありあわせのハガキに一言書いて（何を書いたかは覚えていません）出しました。それから毎日、いつもは朝寝坊の私がなぜか早くに眼覚め、聖書と日課を読み、黙想し祈り、ハガキを書き、1時間ほどがあつという間に過ぎました。何日か経つてある教会から1通のハガキが届きました。「あなたのためにもお祈りしています」との言葉に体が震えるほどの喜びが湧いてきました。日課を読むことはそれまでもずっと続けていたことですが、ほとんどは寝る前ざつと目を通し、読んだ気になっていました。でも、ハガキを書く中で聖書を何度も読むようになって、自分はそのくらい何を聴くかをじっくり考えるようになりました。私には手におえない箇所も多々あり



聖書日課・あなたを覚えて

ますが、「聖書日課」の先生方のメッセージにたくさんのヒントをいただき思いを深めることができました。また、それまで、日課に「○○教会のために」と書いてあつても、どこにあるのかなと思うだけでした。ハガキを出すようになり、時々はお返事をいただいたり、週報や月報を送つてくださる教会もあつたりして、見知らぬ教会がとても身近に感じられるようになりました。「聖書日課セミナー」や他のいろいろな集会で皆さんとお会いできるのもうれしいことです。

正直、こんなハガキを出していいのか、下手な字で勝手なことを書いて失礼ではないのかと今も思います。それでも、日々言葉に養われ、多くの方の祈りに支えられて、今日も私は元気でいることができ、ハガキを書くことができます。

ハガキを受け取つてくださる皆様に感謝します。主にあつてたくさんの方と結びあつていくことにも心から感謝します。ありがとうございます。

在 主

日本の皆様、ごきげんよう



渡邊 英美  
(大岡山教会)

私は、大学院卒業以来、長年に渡り国連で開発関係の仕事をし、いったん退職をした後、現在は、世界銀行の検査パネル (World Bank's Inspection Panel) の議長としてワシントンで働いています。

世界で活躍する女性

市民からの苦情を直接受け付け、危害の有無、程度、またその危害が起きた過

程に世界銀行側に落ち度があつたかを調べるのが仕事です。故に、世界銀行内部の組織でありながら、独立性が高く、公平無私を要求され、世界銀行のスタッフ一般からは嫌われる役柄です。

パネルで受け付けるケースは多種多様で、私の在任中には、バプアニューギニアにおける椰子のプランテーションで働く農民、南アフリカの大規模な火力発電所によって環境や生活に影響を受ける周辺の住民、ナイジェリアで都市開発のため強制移転させられたスラムの住民、先祖代々住んでいた森林から自然保護目的のプロジェクトのため追い払われたケニアの先住民、等から苦情を受け付けて、現地を訪れ、住民の声、またプロジェクト関係者の言い分も聞き取り、調査をしました。

何れのケースも、プロジェクトの大きな目的は、経済、社会の開発ですが、社会全体に発展をもたらしても、その裏には発展のしわ寄せで、何らかの形で危害を受ける貧困層、社会的弱者がいること

パネルの過程は、苦情の原因となった危害の有無、その度合いを確かめ、プロジェクトがきっかけで起きたかどうかを定め、世界銀行側が内部の政策や規則を遵守しなかつたことが原因で危害が起きたかを決定します。パネルの検査を受けて、世界銀行側が解決策を提出し、それを理事会が認証します。

このように描くと、機械的に過程が運べるように聞こえますが、各々の段階で、判断を求められ、回数を重ねることに、公平な判断をする難しさを痛感しています。(次号へ続く)

※世界銀行について

国連の専門機関の一つ。各国の中央政府または同政府から債務保証を受けた機関に対し融資を行う。

